
金融市場パネル(Financial Market Panel)
IMF/IBRD総会記念 国際コンファレンス
第2部パネルディカッション 参考資料
邦銀のアジア業務に関する「定点観測」

2012年10月12日

株式会社野村総合研究所
金融ITイノベーション研究部主任研究員
嶋村 武史

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル



1. 地理的な特徴とその背景

1. 地理的な特徴とその背景

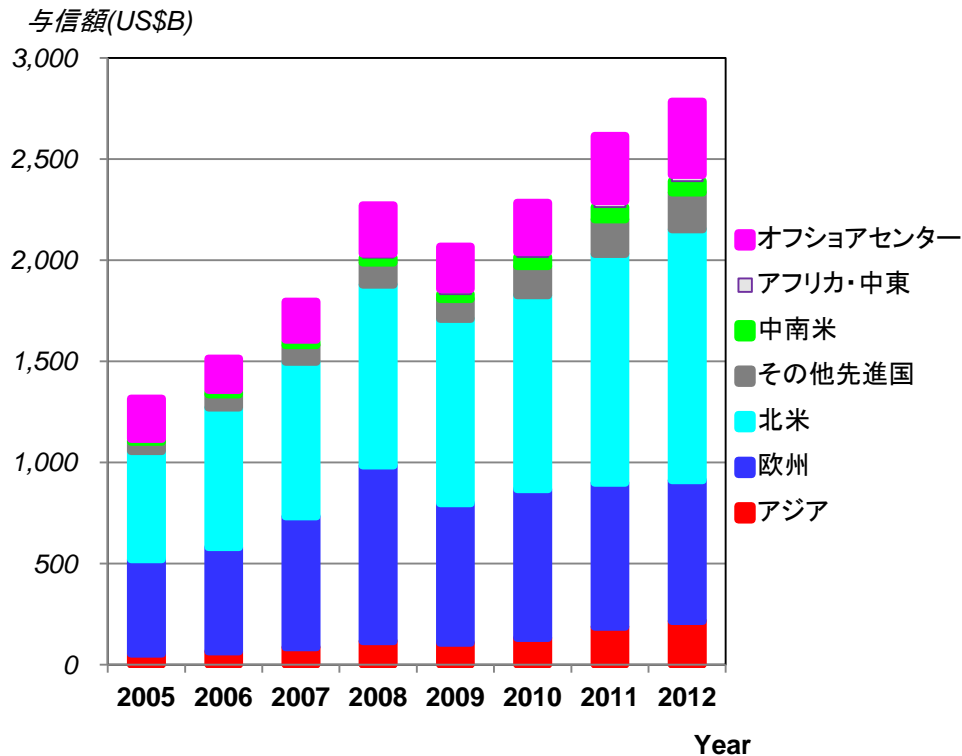
資料: BIS

(1) 2005年から2012年の3月末時点

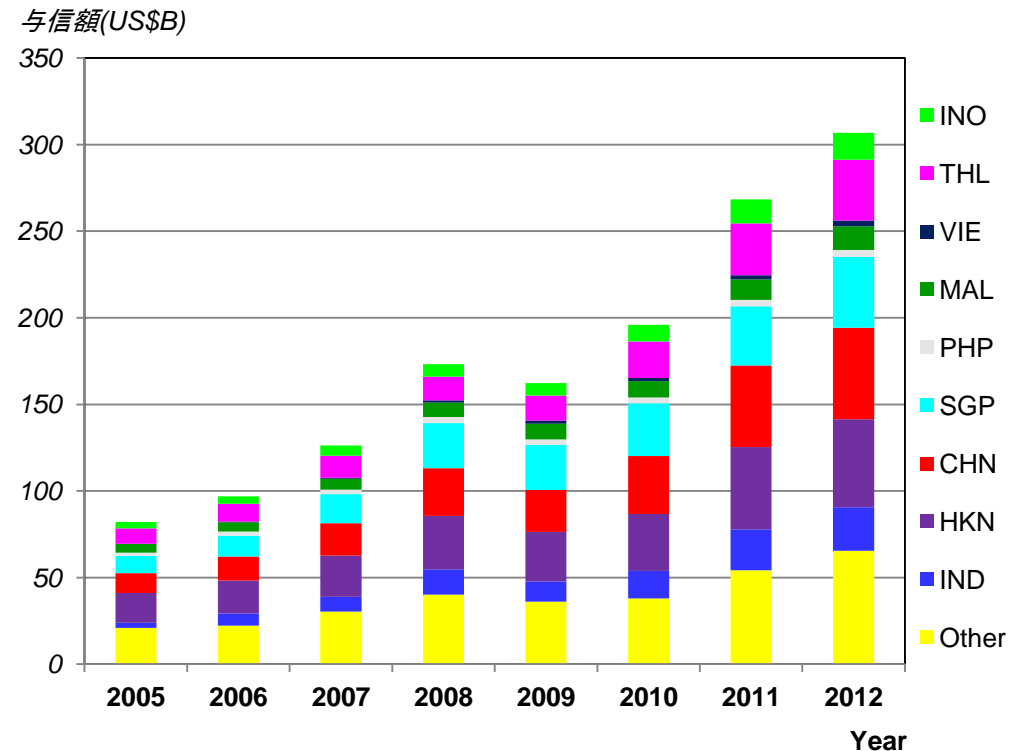
■ 日本の銀行の海外向け貸出の概観

- ・日本の銀行全体の海外向け貸出残高は、米国発の金融危機を経て、足許でむしろ伸びを高めてきたことが目立つ。
- ・地域別には、依然として米国向けの比率が高いが、欧州向けが低迷している。一方で、オフショア・センターを含む新興国向けが着実に伸びてきた。

日本の銀行による地域別海外向け貸出額 (1)



日本の銀行による対アジア向け国別貸出額 (1)



1. 地理的な特徴とその背景

■ メガバンクのアジア向け貸出状況: MUFG

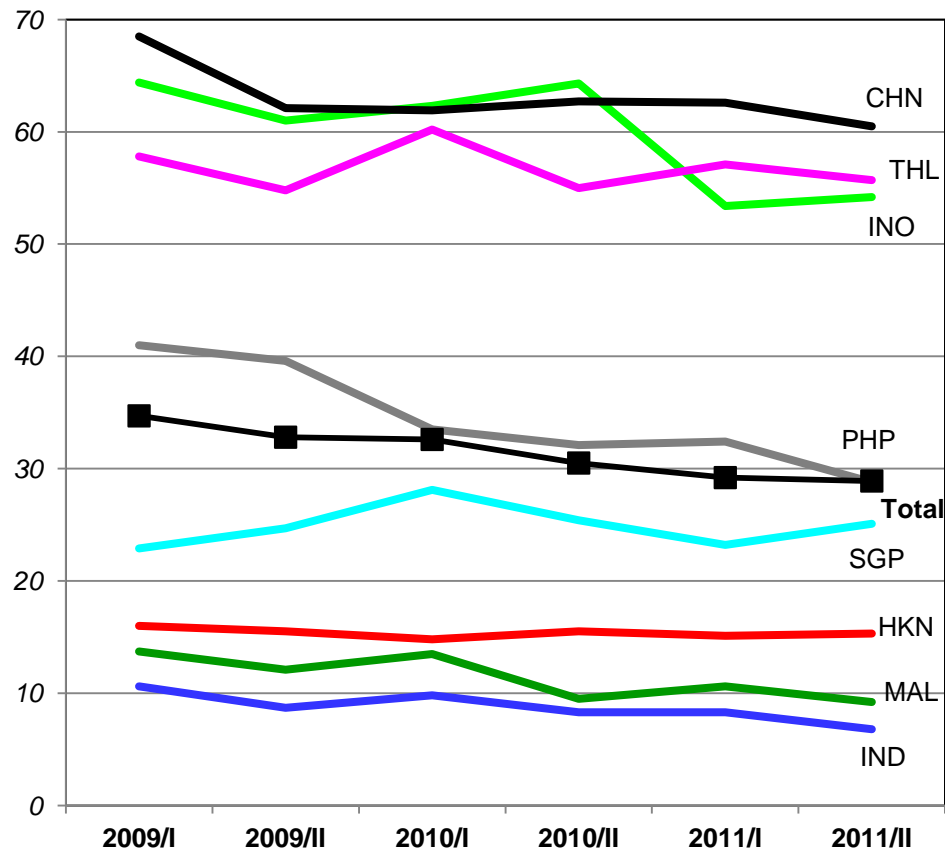
資料: ディスクロージャー資料より抜粋

(1) 商銀連結ベースの貸出金を借入人の国籍で分けた内部管理上の計数

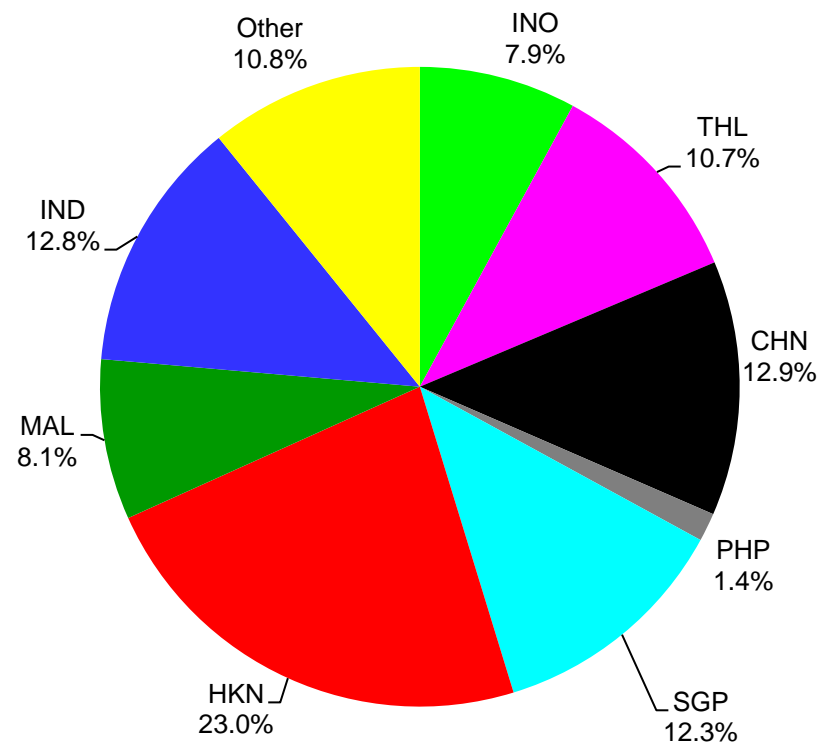
(2) 2012年3月末時点の残高に基づく

アジアの貸出相手国別日系比率⁽¹⁾

日系向け貸出比率(%)



アジアの貸出相手国別シェア⁽²⁾



資料：ADB Economic Indicator
 (1) 2006年から2011年の平均。シンガポールのみ2007年から2011年の平均

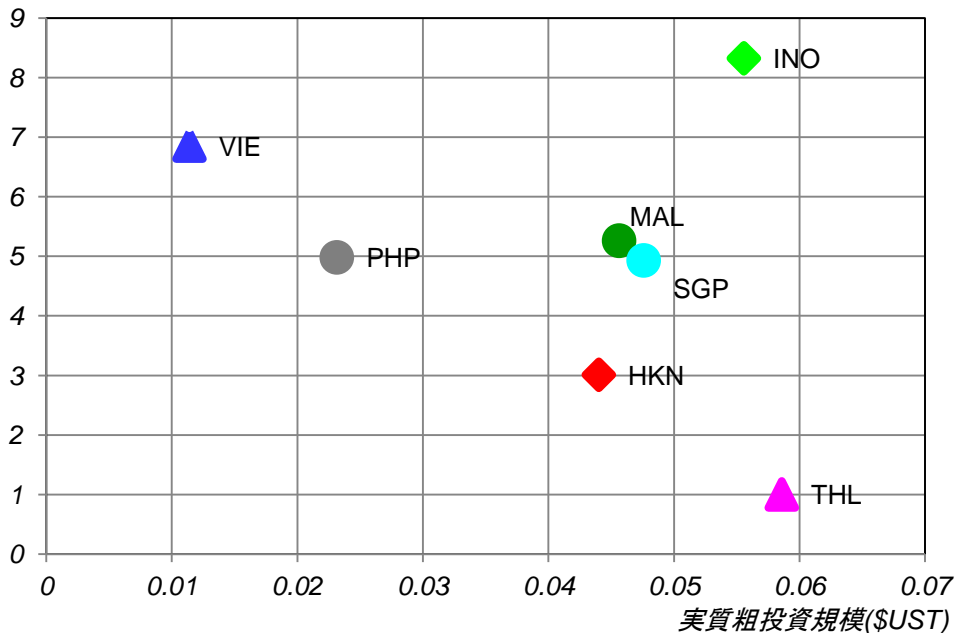
1. 地理的な特徴とその背景

■ 東南アジア諸国のマクロ金融環境

- ・ グロスの設備投資をみると、GDPの規模や成長率と同様に、インドネシアは規模と成長率の双方で優っている一方、タイとベトナムが規模と成長率で対角にある。
- ・ 一方、金融市場の相対規模として民間向けクレジットの対GDP比をみると、新興国の間で顕著な二分化がみられる。すなわち、マレーシアやベトナム、タイはいわばDebt Financeのウエイトが高い。

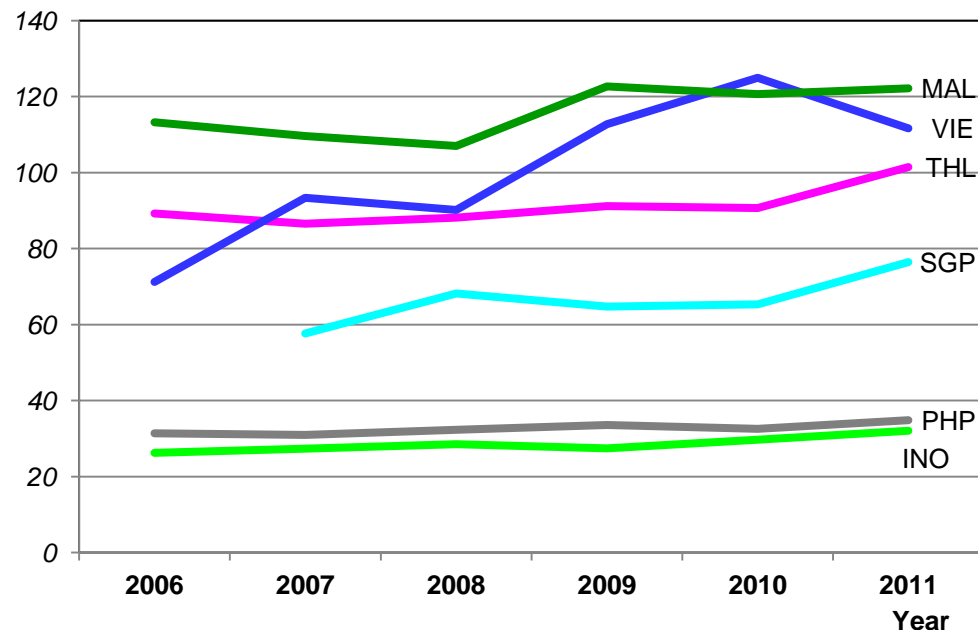
アジア諸国の実質粗投資規模と成長率 (1)

年間平均成長率(%)



アジア諸国の対GDP比民間向けクレジット(名目) (1)

対GDP比民間向け名目クレジット(%)



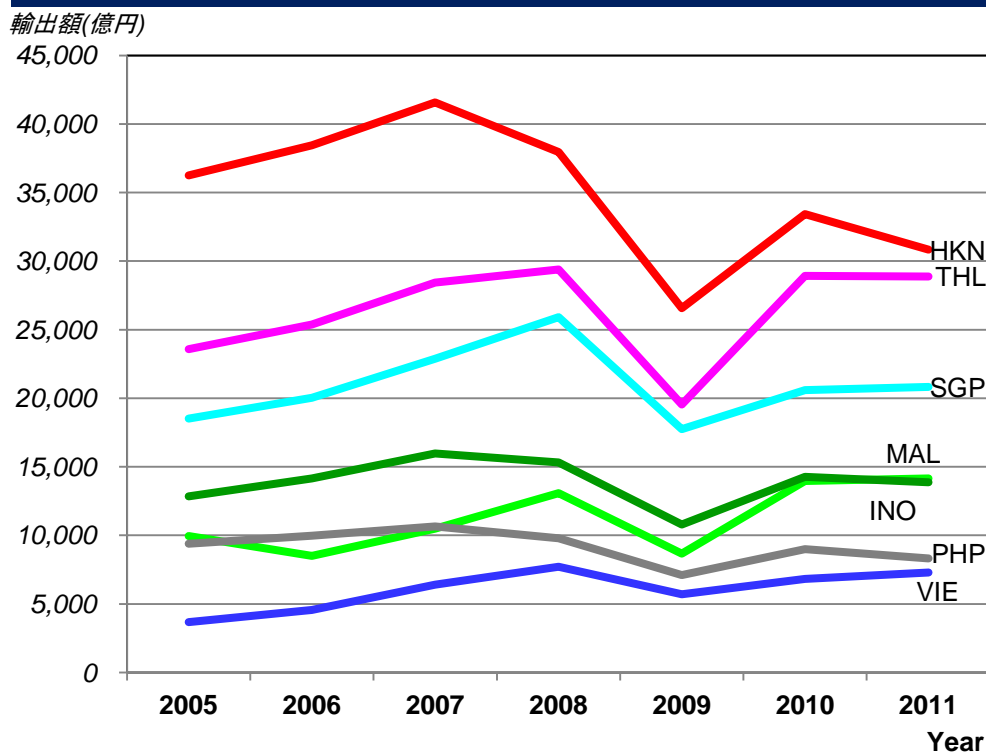
1. 地理的な特徴とその背景

■ 日本との金融経済関係(1)

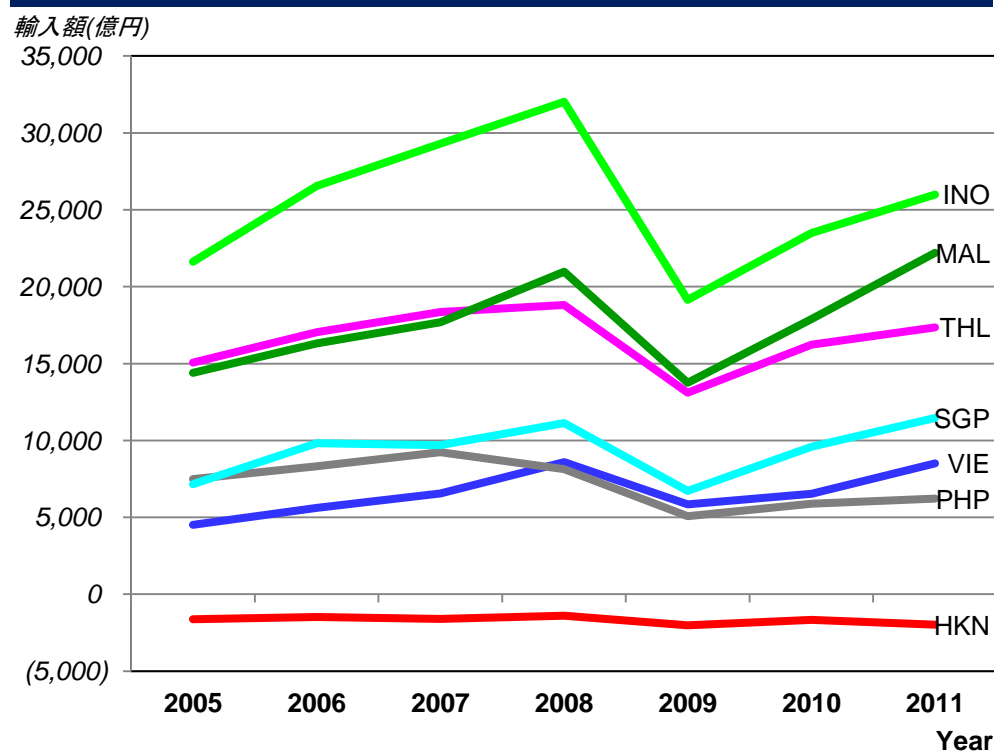
資料:財務省・日本銀行

- ・ 新興国では、輸出はタイやマレーシア、輸入はインドネシア、タイ、マレーシアのウエイトが引続き高い。

日本の輸出額国別推移



日本の輸入額国別推移



1. 地理的な特徴とその背景

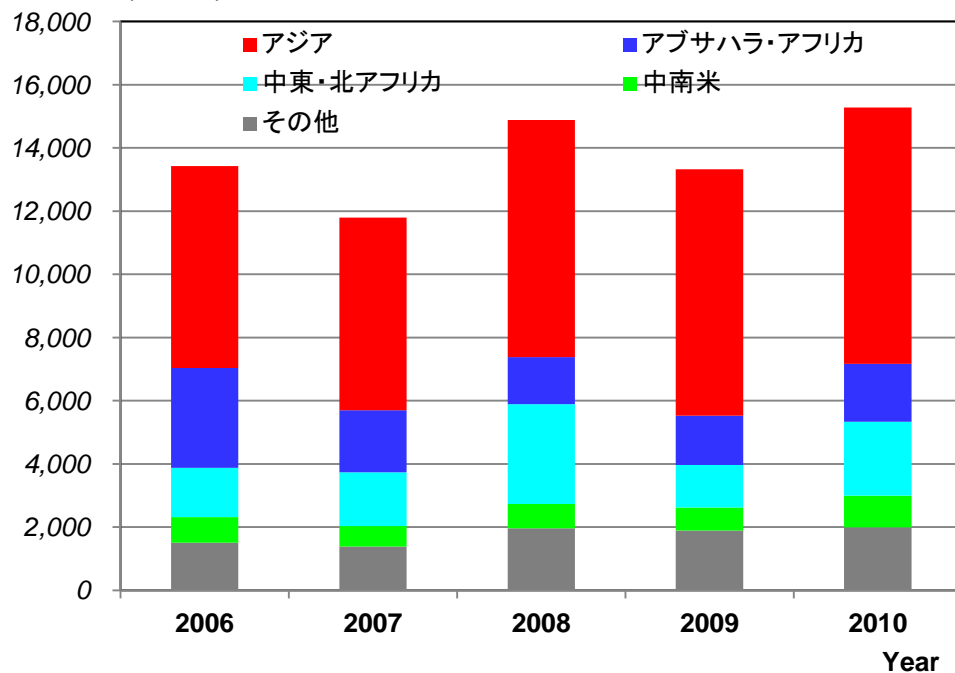
■ 日本との金融経済関係(2)

資料:外務省

- 日本の銀行にとって潜在的なビジネスを提供するODAは、アジア向けのシェアが際だって高いだけでなく、なかでも東南アジア向けのシェアが上昇しつつある(北東アジアで「卒業国」が生じたことが背景)。

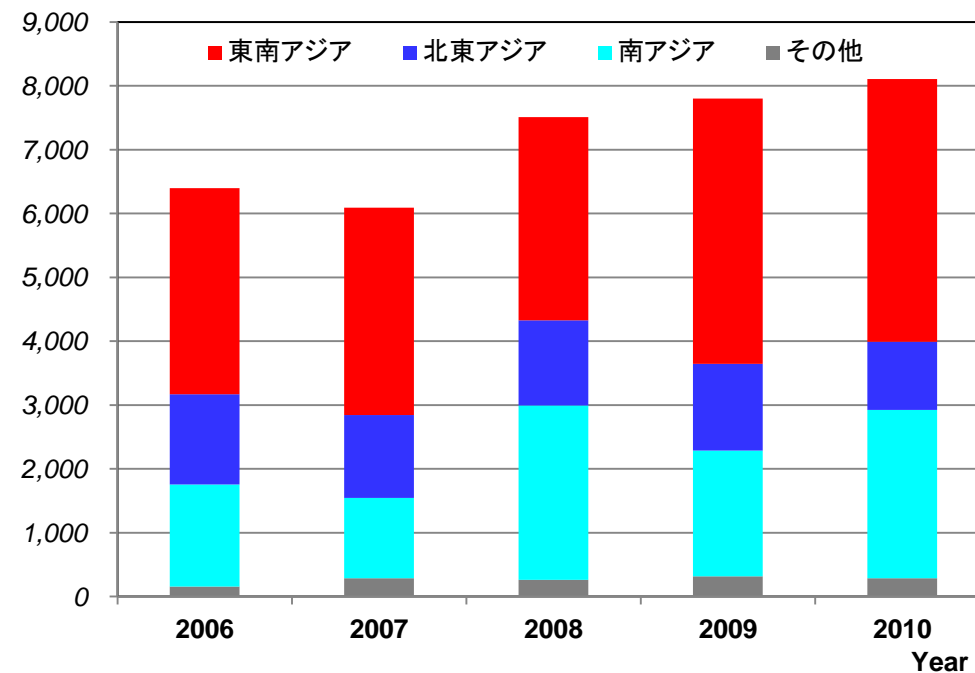
日本のODA総額(地域別)

ODA総額 (US\$ M)



アジア地域別日本のODA総額

ODA総額 (US\$ M)



2. ビジネスの特徴とその背景

2. ビジネスの特徴とその背景

■ アジアでの銀行ビジネスの概観

アジアで必要な銀行ビジネス			
マクロ経済面の特徴	代表国	想定される銀行ビジネス	参入障壁
<ul style="list-style-type: none"> ・経済成長率の高さ ・設備投資需要の強さ 	インドネシア、ベトナム、マレーシア	法人貸出 シ・ローン	<ul style="list-style-type: none"> ・認知度 ・チャンネル(店舗網) ・ノウハウ
		DCM	<ul style="list-style-type: none"> ・人材・ノウハウ
		ECM	<ul style="list-style-type: none"> ・人材・ノウハウ ・認知度
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模インフラ投資需要 	新興アジア全般	プロジェクト・ファイナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・政府等とのリレーション ・人材・ノウハウ
<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の拡大 	インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシア	トレード・ファイナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・認知度
		CMS / 決済	<ul style="list-style-type: none"> ・認知度 ・ITインフラ ・多通貨へのアクセス
<ul style="list-style-type: none"> ・FDIの増加 	香港、シンガポール、インドネシア、ベトナム	M&Aアドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・人材・ノウハウ ・顧客からの信頼度 ・ネットワーク

2. ビジネスの特徴とその背景

■ メガバンクのアジアでの重点業務

メガバンクのアジアにおける重点業務とその背景

重点業務分野	その背景(作業仮説)
<ul style="list-style-type: none"> 法人貸出 	<ul style="list-style-type: none"> 日系顧客の海外進出に伴う資金需要の増加 非日系向け顧客からの認知度向上と現地リレーションの構築 資金調達力における相対的な競争力の強化
<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト・ファイナンス 	<ul style="list-style-type: none"> 政府プロジェクトの増加 政府資金や政策金融(NEXI、JBIC)の活用等を通じたノウハウの蓄積 資金調達力面における相対的競争力の強化
<ul style="list-style-type: none"> トレード・ファイナンス 	<ul style="list-style-type: none"> これまで強みを発揮していた欧州系金融機関の退潮 日本の銀行の信用力や資金調達力における相対的競争力の強化 NEXIやJBICによる貿易保険の活用を通じたリスクの抑制
<ul style="list-style-type: none"> CMS/決済 	<ul style="list-style-type: none"> トレード・ファイナンス等を通じて獲得した商流情報に基づく提案力の強化

2. ビジネスの特徴とその背景

■ メガバンクのアジアビジネスでのプレゼンス

- メガバンクは、シンジケート・ローンやプロジェクト・ファイナンスで地位を高めており、上位10社~15社を窺う状況になっている。

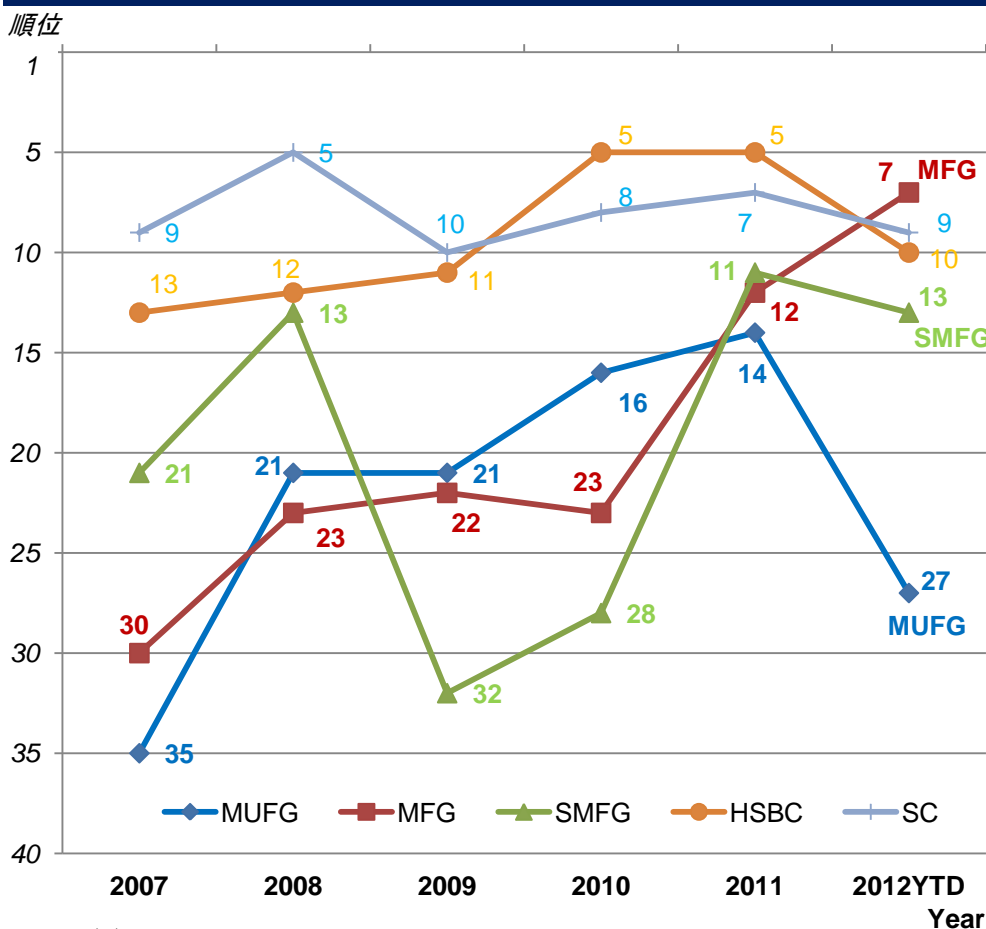
資料: Thomson One

*リーグテーブルの対象国はAPAC(日本除く)

(1) ブックランナー・ベース

(2) FAベース

アジアにおけるシ・ローンリーグテーブルの順位⁽¹⁾



アジアにおけるProject Finance リーグテーブル⁽²⁾

APAC ex-JapanのProject Financeリーグテーブル(2007-2012Julの合計)

Rank	FA	Value (\$M)	Mkt Share(%)	# of Project
1	Macquarie Group	111,083.41	3.2	39
2	State Bank of India	110,642.37	3.2	175
3	Ernst & Young LLP	68,608.91	2.0	22
4	Goldman Sachs & Co	57,270.99	1.7	6
5	RBS	55,928.02	1.6	14
6	KPMG	51,971.91	1.5	13
7	Citi	42,112.88	1.2	7
8	Lazard	39,742.38	1.2	11
9	Investec	39,207.40	1.1	1
10	JP Morgan	38,942.97	1.1	9
11	Credit Agricole CIB	36,350.00	1.1	4
12	Mizuho Financial Group	35,464.00	1.0	4
13	Standard Chartered PLC	32,521.42	0.9	18
14	Sumitomo Mitsui Finl Grp	31,204.67	0.9	12
15	ANZ Banking Group	31,149.82	0.9	13
16	Mitsubishi UFJ Finl Grp	21,877.15	0.6	4
17	PricewaterhouseCoopers	19,957.29	0.6	26
18	Rothschild	18,449.28	0.5	7
19	Societe Generale	18,384.74	0.5	4
20	Bank of America Merrill Lynch	17,627.13	0.5	5
21	Morgan Stanley	17,040.45	0.5	7
22	Greenhill & Co, LLC	16,352.15	0.5	1
22*	Taylor DeJongh	16,352.15	0.5	1
24	Credit Suisse	16,068.54	0.5	6
25	HSBC Holdings PLC	13,211.88	0.4	15
-	Total	3,442,852.81	100.0	2,780

2. ビジネスの特徴とその背景

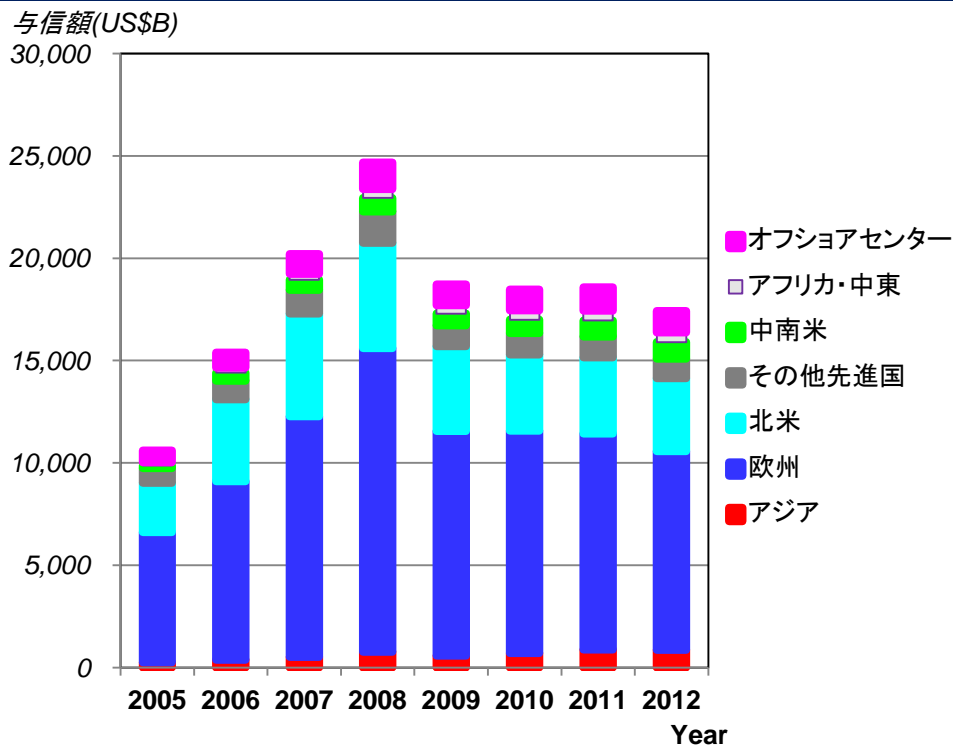
資料: BIS

(1) 2005年から2012年の3月末時点

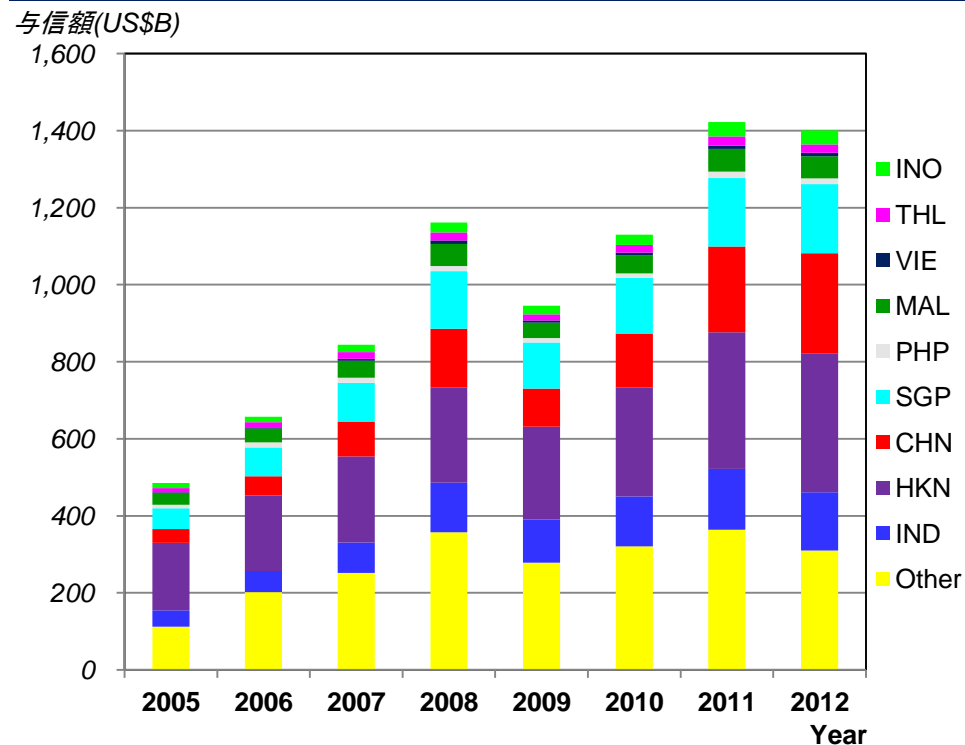
■ 外部環境(1): 欧州金融機関の与信状況

- ・ 欧州の銀行の海外向け貸出額は日本や米国と比較すると非常に大きい。ただし、2008年の金融危機以降は貸出額が減少傾向にある。
- ・ 欧州の銀行によるアジア向け貸出は、海外向け貸出全体の傾向と比較すると概ね堅調に推移しているが、足許は頭打ちとなっている。

欧州の銀行による地域別海外向け貸出額 (1)



欧州の銀行による対アジア向け国別貸出額 (1)



2. ビジネスの特徴とその背景

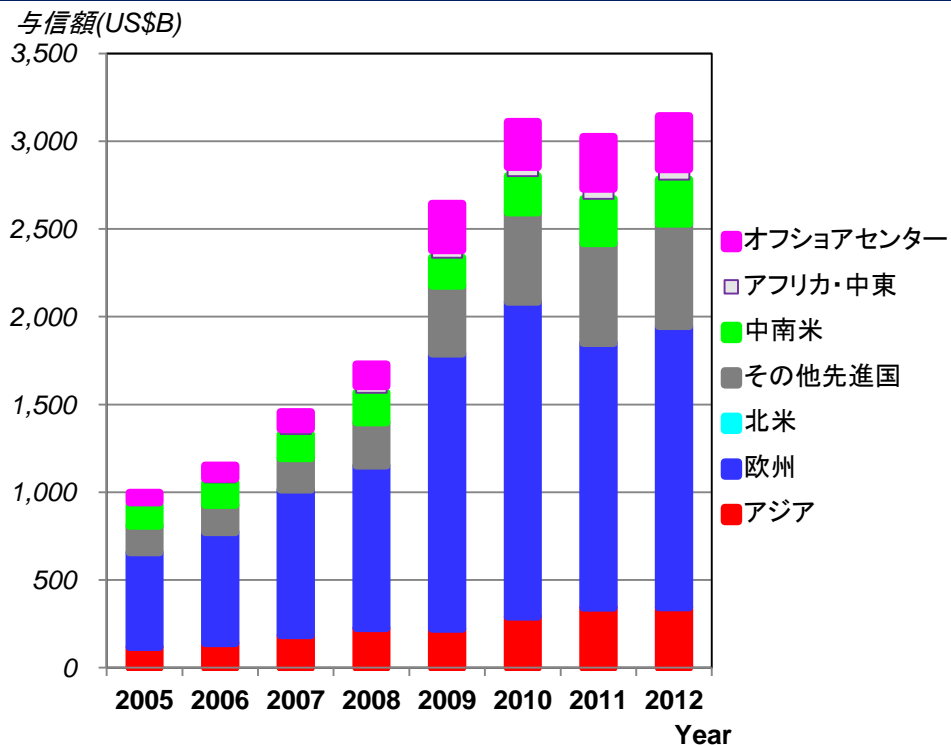
■ 外部環境(2): 米国金融機関の与信状況

資料: BIS

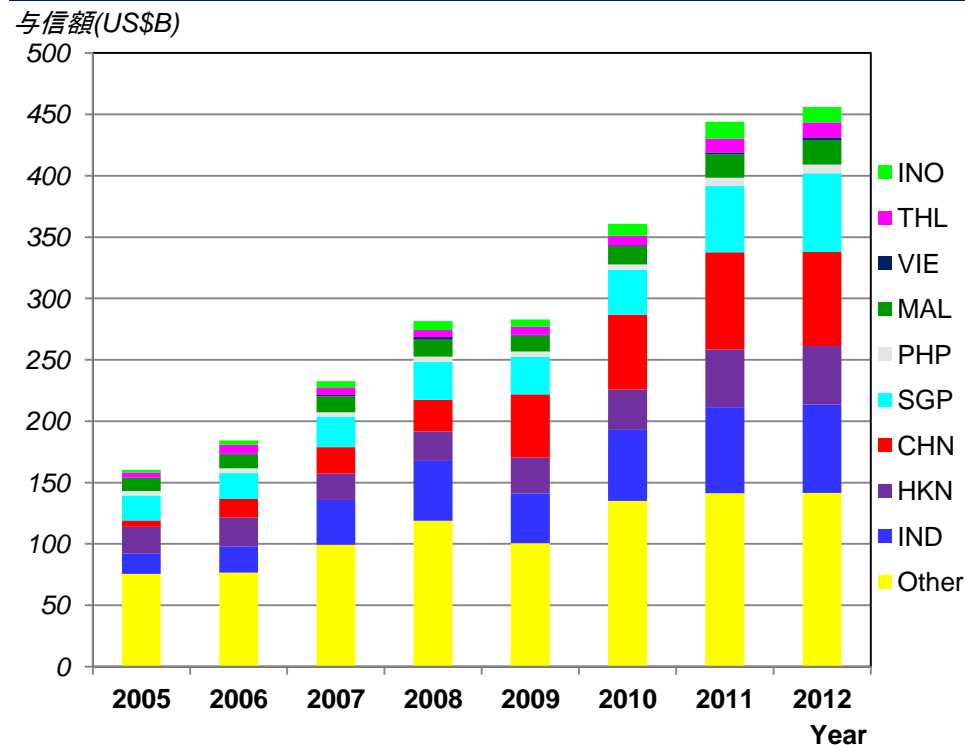
(1) 2005年から2012年の3月末時点

- 米国の銀行の海外向け貸出は、金融危機を経て大きく増加しているが、近年は貸出額の伸びが停滞気味となっている。こうした中で、アジア向けについては増加傾向を維持している。

米国の銀行による地域別海外向け貸出額 (1)



米国の銀行による対アジア向け国別貸出額 (1)



2. ビジネスの特徴とその背景

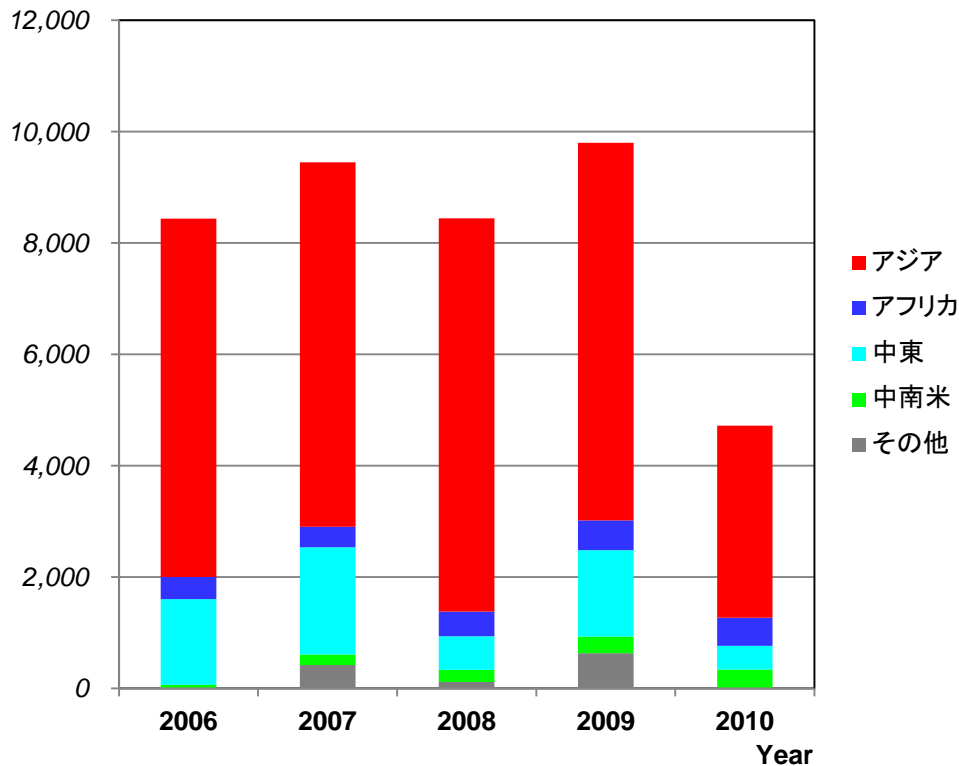
■外部環境(3): 日本の円借款の状況

資料:外務省

- ・ アジア新興国向けの円借款の多くが広義のインフラ関連である。

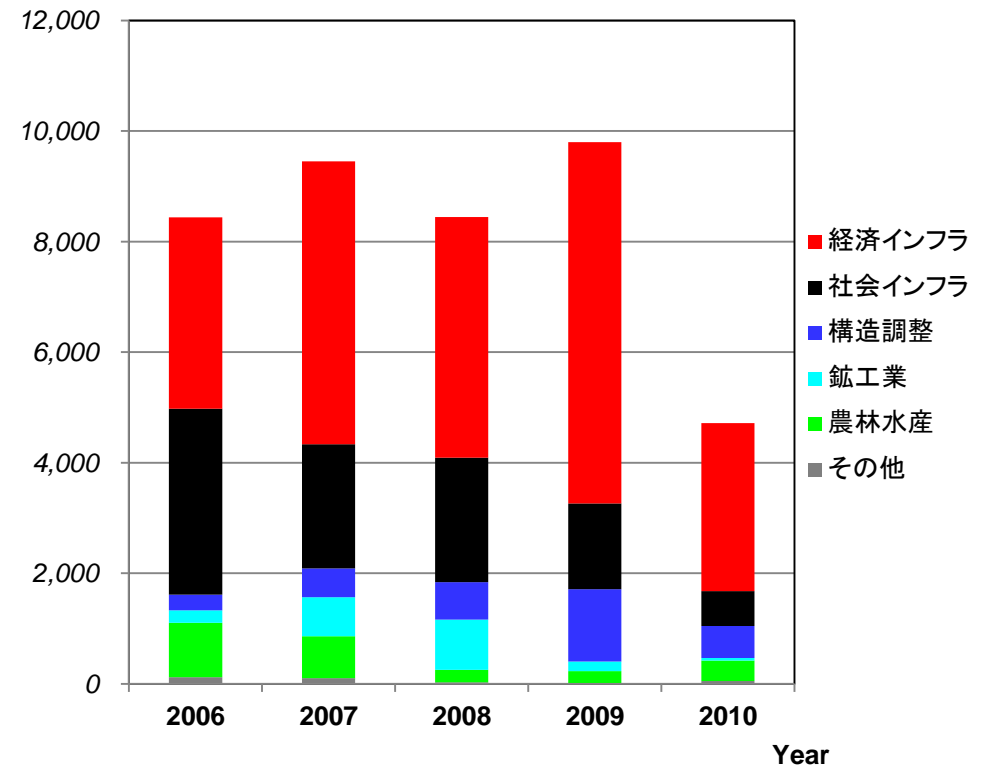
地域別日本の円借款総額

円借款総額(億円)



分野別日本の円借款総額

円借款総額(億円)



3. 国際部門とアジア業務

3. 国際部門とアジア業務

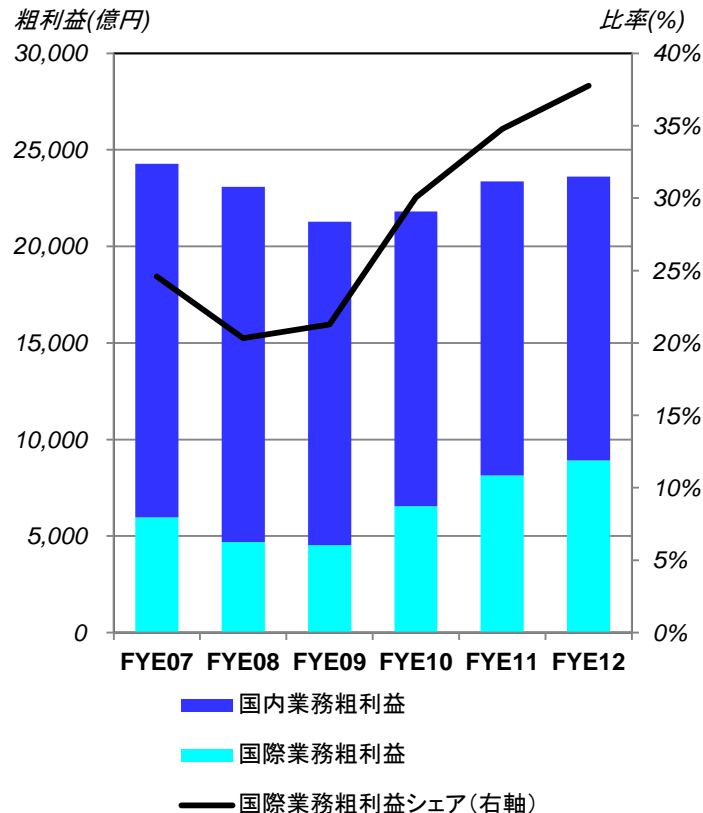
■ メガバンクの国際部門収益(1)

- メガバンクにおいては粗利益全体に占める国際部門の比率が近年高まっており、その比率は全体の1/4から1/3程度になってきている。

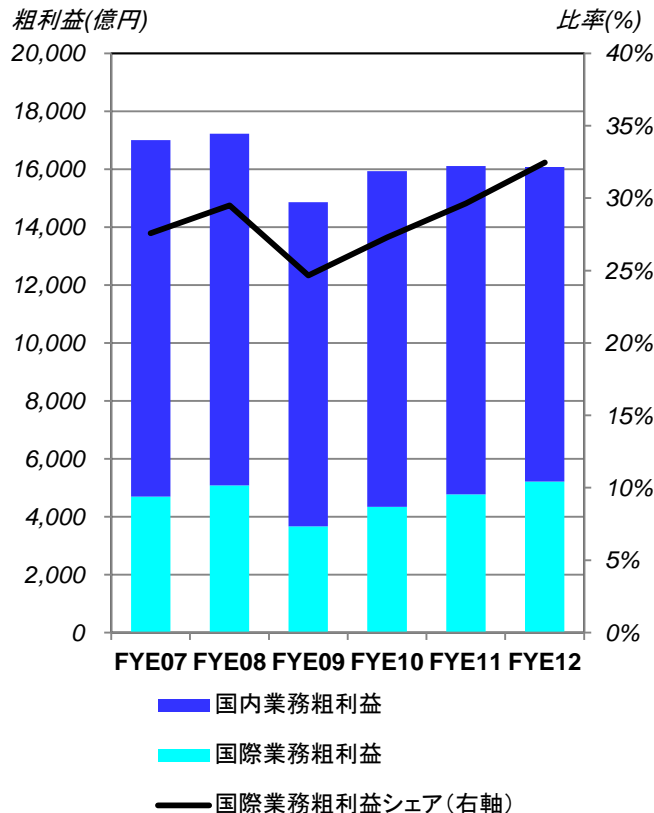
資料: 各行ディスクロージャー資料

(1) MUFGは三菱東京UFJ銀行及び三菱UFJ信託銀行の合算。MFGはみずほ銀行、みずほコーポレート銀行、及びみずほ信託銀行の合算

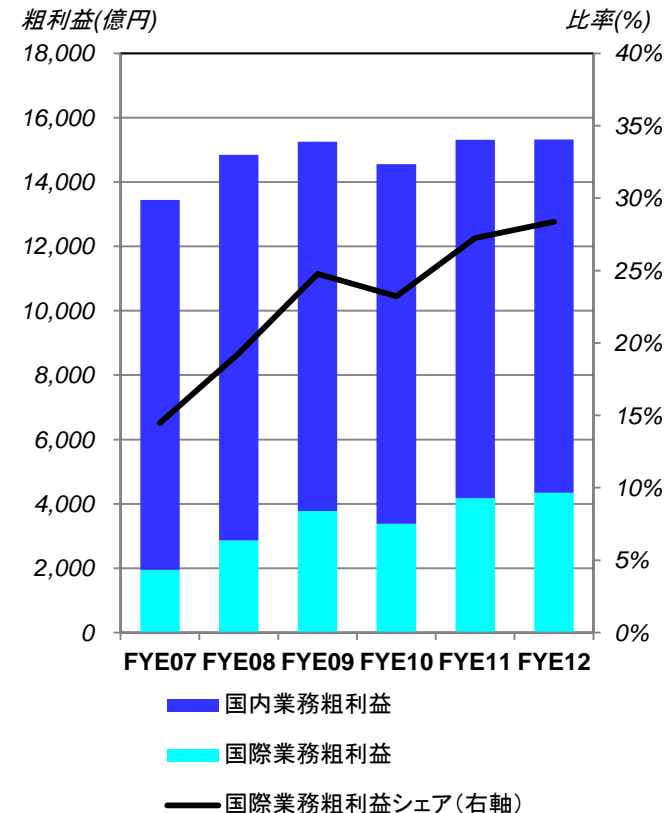
MUFG(銀行+信託)の粗利益推移⁽¹⁾



MFG(3行合算)の粗利益推移⁽¹⁾



三井住友銀行の粗利益推移



3. 国際部門とアジア業務

■ メガバンクの国際部門収益(2)

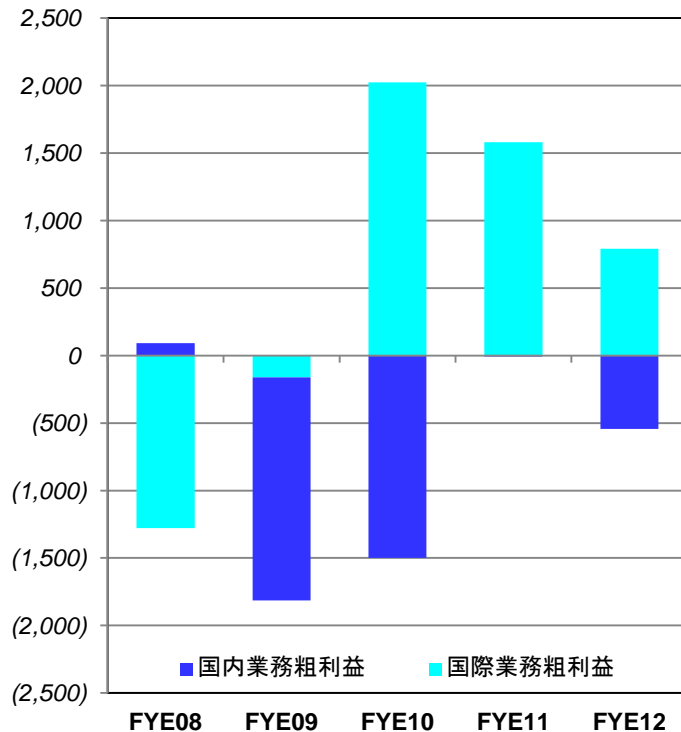
- ・ メガバンクの粗利益の対前年度比増減をみると、近年は、国内部門の減少分を国際部門の増加分で補うことにより、全体として徐々に伸ばしている構図が窺える。
- ・ メガバンクのアジア地域における近年の業務展開を鑑みると、国際部門粗利益の増加分に占めるアジア業務からの寄与度は相対的に大きいものと推察される。

資料：各行ディスクロージャー資料

(1) MUFGは三菱東京UFJ銀行及び三菱UFJ信託銀行の合算。MFGはみずほ銀行、みずほコーポレート銀行、及びみずほ信託銀行の合算

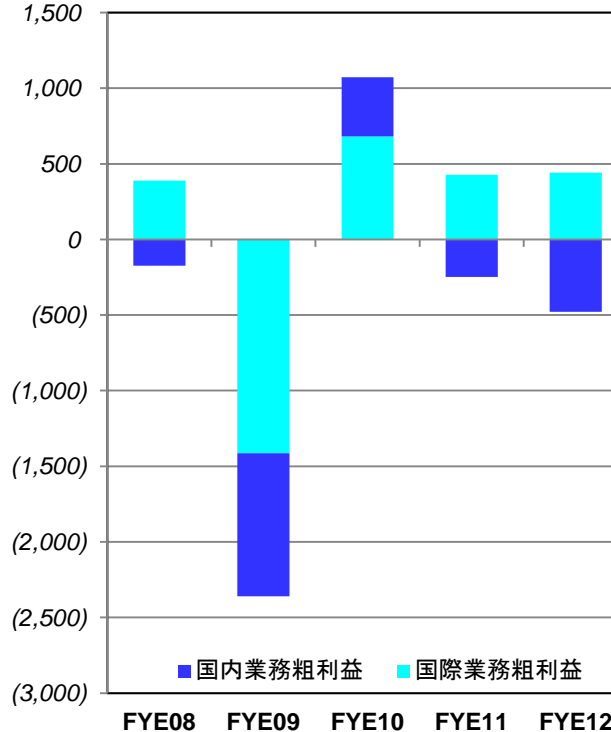
MUFGの粗利益増減(前年度比)⁽¹⁾

粗利益増減(億円)



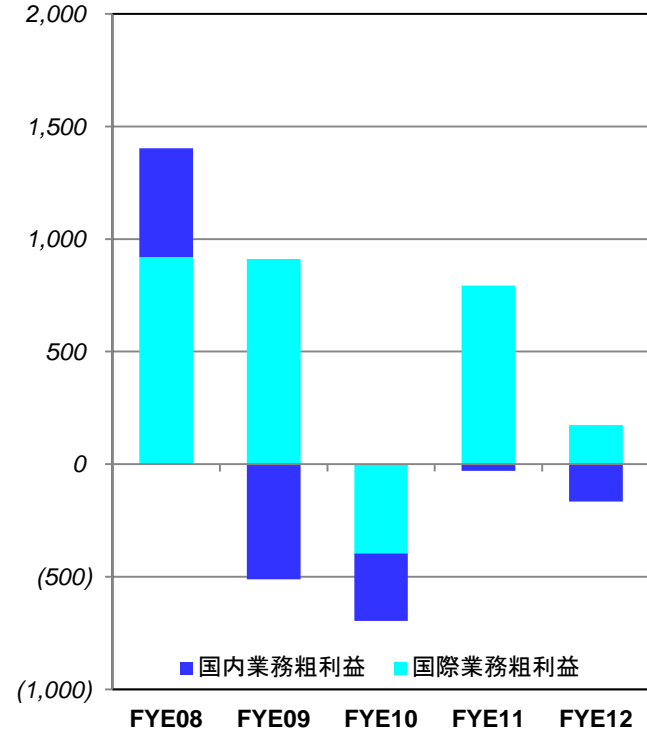
MFGの粗利益増減(前年度比)⁽¹⁾

粗利益増減(億円)



三井住友銀行の粗利増減(前年度比)

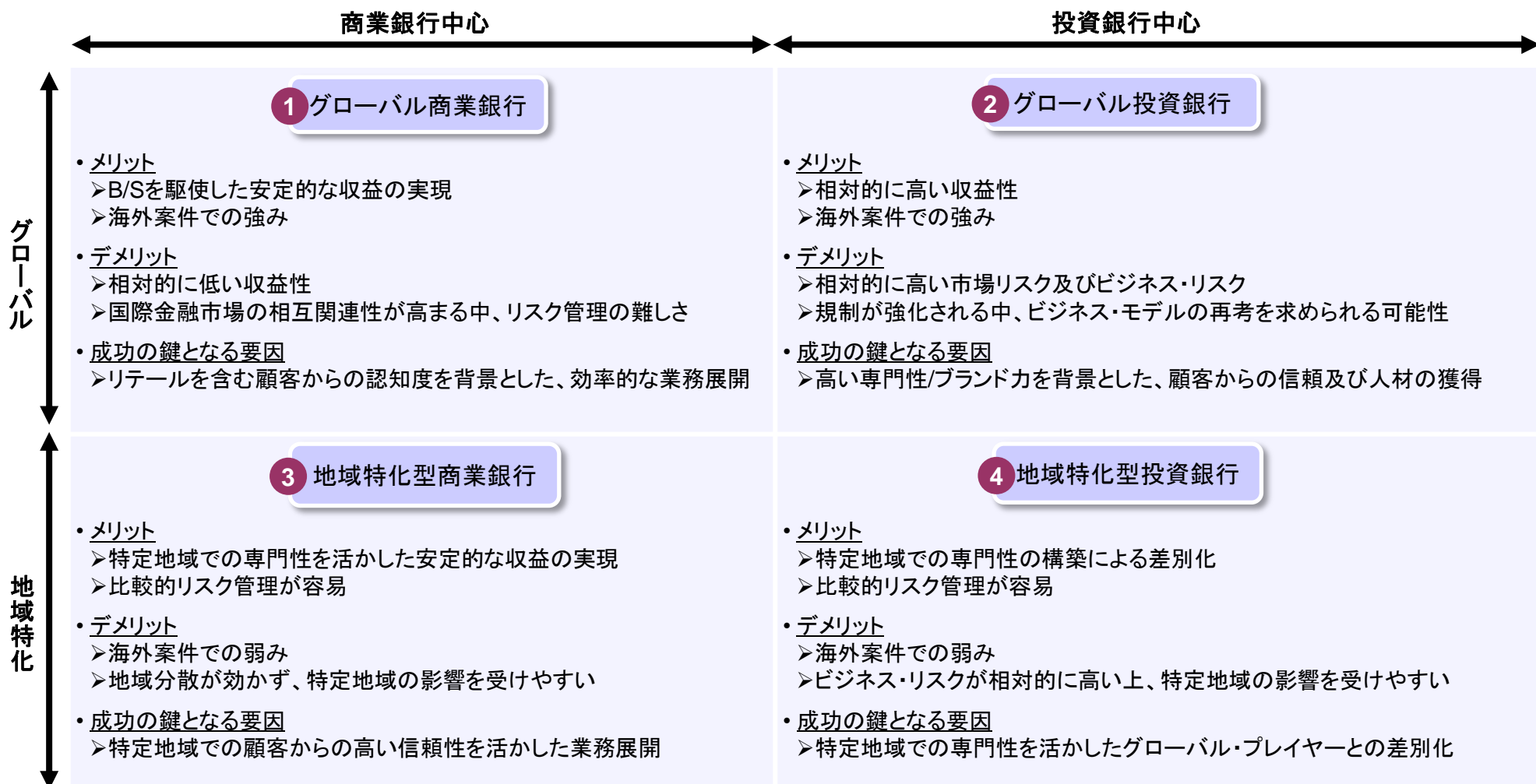
粗利益増減(億円)



3. 国際部門とアジア業務

■ 金融機関の戦略(作業仮説)

金融機関の戦略概観: ビジネスと地域の選択



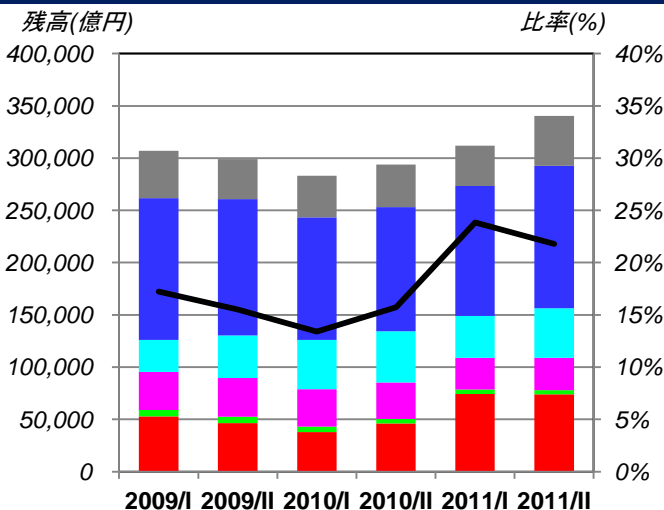
3. 国際部門とアジア業務

■ メガバンクの資金調達(概観)

資料: 各行ディスクロージャー資料
 (1) その他は、資金運用勘定残高とこれらの調達手段の残高合計との差

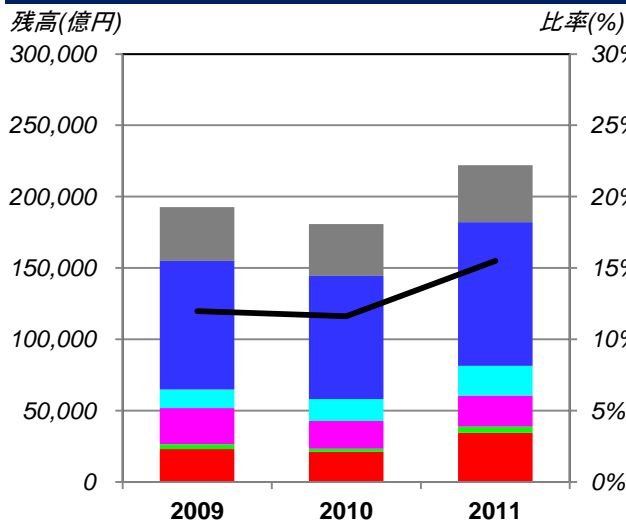
- ・ メガバンクは、国際業務に係る運用資産の概ね2/3を預金等によってファイナンスし、約1割程度を市場性資金で手当している。
- ・ 残りの部分には様々な手段が含まれるが、MUFGとMFGでは足許で2割程度に上昇している。こうした傾向は、債券発行分を「その他」から除外しているSMBCでもあまり変わらない。

MUFG(商銀)の国際業務資金調達(1)



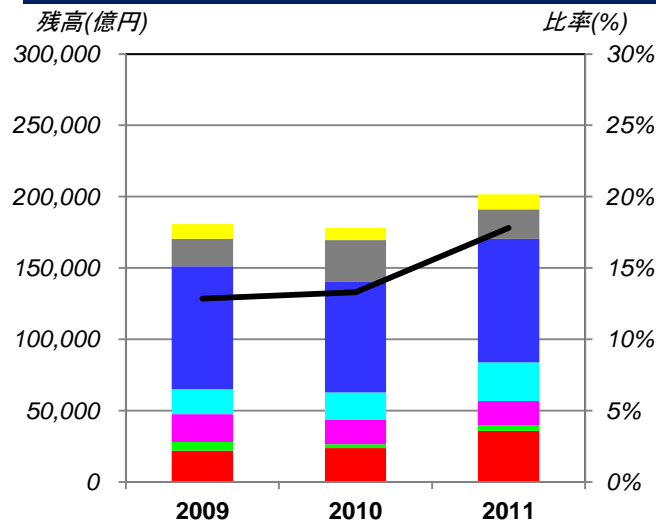
■ 現先
 ■ 譲渡性預金
 ■ コールマネー
 ■ 預金
 ■ 借用金
 ■ その他
 — その他のシェア(右軸)

みずほCBの国際業務資金調達(1)



■ 現先
 ■ 譲渡性預金
 ■ コールマネー
 ■ 預金
 ■ 借用金
 ■ その他
 — その他のシェア(右軸)

三井住友銀行の国際業務資金調達(1)



■ 債券
 ■ 現先
 ■ 譲渡性預金
 ■ コールマネー
 ■ 預金
 ■ 借用金
 ■ その他
 — その他のシェア(右軸)

本資料は、情報提供を唯一の目的としており、投資の勧誘を目的とするものではありません。本資料に記載されている情報は、正確かつ完全であることを著作者が保証するものではありません。記載された意見は著作者個人のものであり、野村総合研究所ないし金融ITイノベーション研究部のものではありません。本資料は、2012年10月12日開催の国際コンファレンスにて受領された方限りでご使用いただきますようお願いします

